

オプトアウト用資料（当院ホームページ掲載用）

研究課題名	急性心筋梗塞発症後早期の僧帽弁閉鎖不全症が予後や入院期間に与える影響についての後ろ向き研究
当センターの研究責任者	澤田 隆弘
研究目的	<p>僧帽弁閉鎖不全症（MR）は急性心筋梗塞発症後にみられる合併症であり、MRの合併が心筋梗塞発症後の予後を悪化させることが以前より報告されている。第2世代の薬剤溶出性ステント（DES）により心筋梗塞後の予後は改善したが、現在でも同様にMRが予後に関連するかについては未だに知られていない。また、MRの合併によって入院期間が延長し、患者さんのADLが低下してしまうことも問題であると考えられる。</p> <p>本研究では、当院に急性心筋梗塞で搬送されたすべての患者さんを調査し、入院1週間以内のMRの有無と患者さんの予後、入院期間などとの関連につき後ろ向きに検討する。</p>
利用する情報	<p>■対象</p> <p>2015年10月1日～2017年9月30日に急性心筋梗塞で当院に搬送され、緊急カテーテル治療を受けたすべての患者さんを対象とする。</p> <p>■利用情報の内容</p> <p>診療情報より、患者情報（例：年齢、性別、入院中や入院後の検査・治療内容、死亡と心不全再入院の有無）の抽出を行い、解析する。研究に伴う追加の検査等を行わない。</p> <p>■利用情報の該当期間</p> <p>2015年10月1日～2017年9月30日</p>
利用情報の他機関への提供の有無 （有の場合はその名称）	なし
個人情報の取り扱い	氏名や住所等の個人を特定できる内容は削除
企業等からの資金提供の有無 （有の場合はその名称）	なし

お問い合わせ先	担当者名：澤田 隆弘 循環器内科 電話番号：079-293-3131
備考	